

ふくおかフィナンシャルグループのお取引先企業の中から、サステナブルファイナンスやSDGsコンサルティングをご利用いただいた企業のサステナビリティの取り組みをご紹介します。

〈今回ご紹介する企業〉

株式会社 八芳園 はっほうえん

エリアプロデュース警固 けご

代表取締役

井上 義則氏 いのうえ よしのり

取引店／福岡銀行 天神町支店

ブライダルを中心に

様々なイベントプロデュースを行う

総合プロデュース企業

株式会社八芳園は東京でブライダルを中心に、企業イベントやMICEなどのプロデュースを行っている総合プロデュース企業です。400年の歴史がある日本庭園を持つ「八芳園」を主要施設として、様々なイベントのプロデュースを行っています。

近年では地域活性・地域創生に向けた事業活動にも取り組んでいます。自治体や企業、教育機関との連携協定の締結も地域活性に向けた取り組みの一環で、現在では日本全国で15の連携

協定を締結し地域プロデュースを行っています。

2021年に開催された東京2020大会では大会に合わせて設置された「2020ホストタウン・ハウス」においてホスト・タウンの企画、イベントプロデュース、メニュー開発などを株式会社八芳園が担当しました。

「THE KEIGO CLUB
by HAPPO-EN」をオープン

2024年3月、福岡市・天神の警固神社社務所ビルに「THE KEIGO CLUB by HAPPO-EN」をオープンしました。東京の八芳園と同様、ブライダルを中心に企業イベントやMICEなどのプロデュースを行っています。



八芳園・壺中庵全景

ただし単にイベントのプロデュースを行う拠点ではなく、福岡というエリア全体をプロデュースしていきたい。社名にはそんな願いを込め「エリアプロデュース」という表現を用いています。



警固神社社務所ビル

実は福岡への進出は念願かなってというわけではなく、福岡県大川市との連携協定などのご縁からお声をいただき出店に至りました。出店の際に心がけたことは、当社を一つの支店としてではなく、地域に根差した福岡の企業として運営する、ということです。そのため社員は東京から呼び寄せず全員を地元福岡から採用しています。

福岡に拠点を設けて感じることは、九州は食材が豊富で生産者や食材の文化をダイレクトに体感できることです。福岡では美味しく新鮮な果物が低価格で調達できる。また生産者と親交を深めていろんな話をするができる。そんな福岡に大変魅力を感じています。

いつまでも在り続けること おもてなしの精神

株式会社八芳園は1943年に飲食店として個人創業しました。創業当時は戦時中であり、国民すべてが国に奉仕するべき、という考え方が色濃く残っていた時代です。創業者の長谷敏司^{はせとしつか}は「人間は食べなければ生きていけない。どうせ食べるなら日本の伝統の味を多くの人に味わってもらいたい。」そのような想いで飲食店を開店しました。その後、ご縁があり今の八芳園で飲食店を経営するようになり、さらに事業の中心がブライダルへ移り変わっていきました。お客さまに料理を愉しんでいただき、八芳園がお客さまのこのころのふるさととしていつまでも在り続けたい。そのおもてなしの精神は今でも八芳園グループのものさし・指標となっています。「今の事業や会社の在り方は創業者の想いに沿っているか？変わっていないか？」と常に自身へ問いかけしています。

THE KEGO CLUB by HAPPY ENにおいても、その理念は当然継承しています。理念が事業となり、お客さまへのサービスへつながる好循環を目指していますが、社員へ対して理念をどう浸透させていくかが重要だと思っています。

地域が抱える問題を 一緒に解決していく

福岡にいざ出店してみると、地域ごとに様々な問題を抱えているのがわかります。いろんな生産者や自治体などが抱える地域課題は東京からみるとニュースの一つにすぎませんが、地元では身近な問題となります。生産者や自治体などが抱える地域課題と一緒に考え、一緒に解決していく、ネガティブな状況をポジティブな事業に変えていく考えや取り組みが大事なのだと思っています。

THE KEGO CLUB by HAPPY ENはオープン後ブライダルや企業イベントなど好評を得ており、滑り出しは順調です。料理がおいしいとか、会場の空間がきれいなどの声もいた



井上義則代表取締役



THE KEGO CLUB by HAPPO-EN 2024年2月レセプション

だいているほか、大変嬉しいことに従業員の接客・応対が素晴らしいとお声もいただいています。

近年のインバウンド需要から、ホテル業界ではバンケットを縮小し、宿泊に特化する傾向があります。対して当社はバンケットに特化し、ブライダルをはじめとした企業イベントやMICEなどのイベントプロデュースをさらに強化していきたいと思っています。

食の安全と文化を守りながら 環境へも配慮

八芳園グループでは創業から食の安全や文化を守ることにこだわって事業を続けてまいりました。ブライダルや企業イベント、自治体や様々な機関との連携なども「食」という根本がしっかりとっているからこそ成功できたことだと思います。

また、環境負荷を軽減することも大変重要だと思っています。株式会社八芳園では、今回本館の大規模な改修工事を実施することを決定しました。日本国内の人口減や人々の生活様式の変化により、人々の結婚観も時代とともに変化しています。現在の本館は築後数十年が経過しているため、現在の世の中の在り方・事業活動に最適な設備にしたいのと、ZEB認証を取得し環境負荷を極力低減した建物へ変貌させたいと思っています。

サステナブルファイナンス

現在、世の中ではテレビや新聞紙面で毎日のようにSDGs、サステナビリティという言葉が飛び

交っています。株式会社八芳園で自社の取り組みを確認した際、「サステナビリティって、今まで八芳園がやってきたことそのままだね」こんな言葉が社員から出ました。世間でサステナビリティという言葉が広まる前から八芳園が行ってきたこと、それこそ、創業時の経営理念そのものがサステナビリティなんだ、と思っています。ただ、自社で認識しているだけでは不十分、との思いがありました。

今回、THE KEGO CLUB by HAPPO-ENの開店資金として福岡銀行にてポジティブ・インパクト・ファイナンスを利用しました。当初はこのような融資制度を知らず、銀行から案内いただいた際にはSDGsのような大儀的なことを融資に結び付けてできるのか、という疑問もありました。しかし評価書のストーリーが非常に面白い取り組みだな、と感じ今回利用することになりました。その結果今回ポジティブ・インパクト・ファイナンスを利用したことで周りから「ポジティブ・インパクト・ファイナンスって何？」と興味をもっていたことや、改めて自社の取り組みや考え方を整理できたことが有意義だったと思っています。

今後とも、当社は福岡の地域社会の発展のため、事業活動やサステナビリティ活動にしっかりと取り組んでいきたいと思っています。



〈FFG〉ポジティブ・インパクト・ファイナンス実行の記念楯を贈呈（左から井上代表取締役、福岡銀行天神町支店 大石前支店長）

八芳園グループ

■株式会社八芳園エリアプロデュース警固

ブライダル事業、イベントプロデュース事業

〒810-0001 福岡市中央区天神二丁目2番20号 092-707-2053



■株式会社八芳園

ブライダル事業、料亭・レストラン事業、イベントプロデュース事業、空間デザイン事業、フード事業、デジタルサービス事業

〒108-0071 東京都港区白金台一丁目1番1号 0570-064-128

■株式会社八芳園交流コンテンツプロデュース

自治体PR事業、ホスピタリティプログラム開発事業、食の拠点開発事業

〒108-0071 東京都港区白金台一丁目1番6号 03-6456-2030

■株式会社八芳園ヒューマンリソースマネジメント

人材派遣、人材紹介、レストランビジネスのコンサルティング、開業支援、プロデュース事業のコンサルティング

〒108-0071 東京都港区白金台一丁目1番6号 050-1808-4146



FFG公式YouTubeチャンネル
では当社へインタビューして
います。

こちらをご覧ください。



FFGでは企業のESG／SDGsの取り組みを支援しています

FFG公式
チャンネルはこちら



ふくおかフィナンシャルグループ
営業統括部 サステナビリティ推進企画グループ
■お問い合わせ：TEL.092-723-2512

サステナビリティに
関することは
何でもご相談ください

ふくおかフィナンシャルグループのお取引先企業の中から、サステナブルファイナンスやSDGsコンサルティングをご利用いただいた企業のサステナビリティの取り組みをご紹介します。

〈今回ご紹介する企業〉

株式会社 中央環境

ちゅうおう かんきょう

代表取締役

うえだ やす ひさ

上田 恭久氏

取引店／十八親和銀行 長崎営業部

資源環境を推進する廃棄物処理・リサイクルのプロフェッショナル

自然豊かな長崎を後世に残す

当社は1981年有限会社中央環境開発として創業設立しました。現在は長崎市西海町に本社工場を構え、産業廃棄物の中間処理・リサイクル事業を中核として、一般廃棄物・産業廃棄物・特別管理産業廃棄物の収集運搬、一般廃棄物の中間処理、産業廃棄物の最終処分各事業を行っています。また、2013年に発電利用に供する木質バイオマスの証明に係る事業者認定

を受け、廃棄物処理・リサイクルなどの資源循環を推進しています。

これまで培われた技術と経験を活かして廃棄物の収集運搬業及び処分業として、排出される廃棄物の収集運搬及び持込まれた廃棄物の減量化や安定化、安全化等の処理を行い法に遵守し、自主的かつ積極的に取り組んでいます。地球の環境破壊が叫ばれる中、環境への負荷低減を推進するため、当社は法改正等の情報を常に把握した管理運営体制を行うことはこれまで同様、



本社

さらに排出される産業廃棄物や一般廃棄物を再利用、再生利用、熱回収の優先順位でもって高度選別や再生処理を施し、資源の有効利用と自然環境への負荷を低減するリサイクル事業をより

一層推進しています。適正処分として自社の安定型最終処分場にて周辺環境への調和を配慮しながら適正に処分を行っており、また、これらの事業を支えるための研究開発や技術革新を継続的に行うことによって、地域社会に密着した信頼性と確かな技術力を備えた働きやすい企業を目指していきます。

「自然豊かな長崎を後世に残す」というスローガンのもと、廃棄物の再利用等を通して廃棄物を限りなくゼロにしようとする取り組み「ゼロエミッション」にも力を入れ、時代のニーズに沿ったサステナビリティ活動も実践しています。

廃棄物を一元管理

当社は長崎県内でも数少ない準好気性埋立構造（福岡方式）を採用した安定型最終処分場を所有しております。これにより、微生物の集積が計られ、微生物の活性が高まることにより、埋立地の早期安定化に寄与し、硝化・脱窒反応が促進され有機成分と同時に窒素成分が除去され易く浸出水量の変動の抑制や削減を実現しています。一方で、降雨等によって処分場から発生する浸透水は、24時間水質のモニタリングを行っており、月に一度、地下水など処分場周辺の水質

検査も実施しており、環境に影響を与えていないか監視しています。

この最終処分場を所有することによって、個人・事業者から収集運搬および持ち込まれた産業廃棄物・一般廃棄物を一元管理できることにより、①トータルなコスト削減（様々な事業所・作業所の状況に応じた最適な分別・回収方法）の提案、②リサイクル率の向上（きめ細かく選別し、徹底した再資源化）の提案、適正処理（法律に即した収集運搬、再資源化および、関係法令の改正対応など）の提案を実施しています。

環境問題に配慮した経営

これまでの大量生産・大量消費型の経済活動は、大量廃棄型の社会を形成し、健全な物質環境を阻害するほか、気候変動問題、天然資源の枯渇、大規模な資源採取による生息環境の破壊・生物多様性の喪失など、様々な環境問題にも密接に関係しています。資源・エネルギーや食糧需要の増大や廃棄物発生量の増加が世界全体で深刻化しており、一方通行型の経済社会活動から、持続可能な形で資源を利用する「循環経済（サーキュラーエコノミー）（※）」への移行が現実的な課題と認識しています。

同社は、2MWのソーラー発電所を構え、再生可能エネルギーの供給を行っています。また、2006年にエコアクション21の認証登録を行っており、早くから環境経営に全従業員で取り



2MWソーラー発電所

組んでいます。「自然豊かな長崎を後世に残す」というスローガンをもとに、高度選別や再生処理を施し、資源の有効利用と自然環境への負荷を低減するため、法に遵守した廃棄物の適正処理を行うことはもちろんのこと、ゼロエミッションを視野に入れたリサイクル事業、研究開発や技術革新を継続的に行い、地域社会に密着した信頼性と確かな技術力を備えた企業を目指しています。

※従来の3Rの取り組みに加え、資源投入量・消費量を抑えつつ、ストックを有効活用しながら、サービス化等を通じて付加価値を生み出す経済活動

ダイバーシティ実現に向けた活動

同社は、現場の女性や高齢者が活躍しやすいように労働環境を整備しています。具体的には、現場での女性用休憩場の設置を行いました。現在女性従業員のうち、管理職は1名ですが、今後は従業員数含め管理職数の増加を図っていく方針です。また、延長雇用(定年60歳)・再雇用制度(再雇用65歳まで)を整備したことによって、多くの60歳以上の雇用者が在籍しています(現在最高年齢65歳)。今後もダイバーシティを実現すると同時に、同社の持続可能性を高めるための施策を実施・検討していきます。

社会貢献・地域活性化活動

当社は様々な地域活動に参画し、社会貢献活動・地域活性化活動に積極的に取り組んでいます。また、事業基盤の強化及び地域経済活性化を図るためには、取引先や協力会社との連携の維持と拡大が重要であると考えており、社会インフラに携わる企業として、大規模災害などを想定したBCP(事業継続計画)を策定しています。

サステナブルファイナンス

十八親和銀行の「FFG」ポジティブ・インパクト・ファイナンス」を利用

2024年9月に取引いただいている十八親和銀行長崎営業部にて、サステナブルファイナンス(FFG)ポジティブ・インパクト・ファイナンスを利用いたしました。

本ファイナンスは、FFG独自のESG/SDGs評価サービス「Sustainable Scale Index」による評価結果や国際的なインパクト算定ツール

を基に対話を重ね、当社の活動が環境・社会・経済に与えるポジティブならびにネガティブな影響を分析・特定し、ネガティブな効果を低減しながらポジティブな効果を増大(KPIを設定)させることで、当社の持続的な成長につながるよう、十八親和銀行が中長期的な伴走支援を行う商品です。作成いただいた評価書は、当社ホームページ・十八親和銀行のホームページで確認でき



準好気性埋立構造(福岡方式)を採用した最終処分場(安定型)

ますので、ご覧いただければ幸いです。
 〈FFG〉ポジティブ・インパクト・ファイナンスでは、サステナビリティに関する目標を設定する必要があると思いますが、当社では「木くずに関するリサイクル率100%を維持する」、「固形燃料（RPF）を年間1万5千トン製造する」、「2031年度までに取引先数を10%増加させる」などの6つの目標を設定しました。これらの目標を、社内勉強会を通じて社員一丸となつて取り組んでいきたいと考えております。



〈FFG〉ポジティブ・インパクト・ファイナンス実行の記念楯を贈呈（左から十八親和銀行長崎営業部 三浦部長、上田社長）

株式会社 中央環境

■本社所在地：〒851-3101 長崎市西海町2739番地4

■電話番号：095-884-3229

■事業内容：産業廃棄物処理業



FFGでは企業のESG／SDGsの取り組みを支援しています

FFG公式
チャンネルはこちら



ふくおかフィナンシャルグループ
営業統括部 サステナビリティ推進企画グループ
■お問い合わせ：TEL.092-723-2512

サステナビリティに
関することは
何でもご相談ください